

2019年3月期第2四半期累計 決算説明資料

菊水電子工業株式会社
www.kikusui.co.jp



大容量スマート交流・直流安定化電源
PCR-WE/WE2シリーズ

目次

会社紹介

P3～

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

P12～

2019年3月期 連結業績予想

P23～

今後の事業戦略

P25～

会社紹介

会社紹介

● 会社概要 (2018年9月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	各種電子計測器・産業用電源装置・ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	10.96%
	菊水取引先持株会	10.83%
	菊水電子工業従業員持株会	5.62%
	株式会社みずほ銀行	4.34%
	小林寛子	4.18%
	日本生命保険相互会社	3.63%
	ケル株式会社	2.65%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.59%
	橋本幸雄	2.27%
	三井住友信託銀行株式会社	2.21%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	296名(2018年9月末現在) []は前年比増減	
	研究開発:	86名 [+5]
	生産・購買:	76名 [-6]
	営業:	104名 [+2]
	管理:	30名 [±0]
主要納入先 (順不同)	防衛省、株式会社日立製作所、株式会社東芝、三菱電機株式会社、日本電気株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソー	



会社紹介

● 国内外拠点・関連子会社



会社紹介

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区奥田にて
資本金30万円、役員4名、従業員6名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証
(昭和4年、31歳)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正則 (取締役)、小林 証 (代表取締役)、尾崎幸雄 (副社長)
高田正雄 (取締役)、一柳敏郎、広崎 隆ら

1957
昭和32年

**ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ**
計測器がダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低電圧ディケード周波数計
CRC-39A
3000周のディケード方式
身がなが便利な製品であった

ロングウェーブトランジスタ
TR-604
OEM供給していた
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36～37年

菊水電子工業株式会社
へ社名を変更
専ら計測器の製造に専念
計測器の生産体制を整える

マイコン・プロセッサ 開発
計測器の大型化、マイコンの採用
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

製品開発中

1966-68
昭和41～43年

第一次販路の年
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

1971-74
昭和46～49年

創立20周年
第一次販路の年
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

1981-82
昭和56～57年

米空軍との大型商談
オシロア180台 (23億円)
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

1985-88
昭和60～63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコム・インストルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙！
グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
需要が多かすとも広告だけで
どんどん注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元～3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専売物流会社
クイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公開による新株発行数：75万株
発行総額：2,330円/1株

1990年6月
立川市に
西東京営業所
開設

株式会社公開の母体社 (立川市中野区)
年3月期 売上高112億、従業員数366名であった

2000-01
平成12～13年

ISO14001認証取得
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

2001年販売用製品がグッドデザイン賞を受賞！

GOOD DESIGN AWARD 2001









1995
平成7年

ISO9001認証取得
計測器の生産体制を整える
計測器の生産体制を整える

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001認証を取得
登録証番号:GA-1100

会社紹介

● 事業活動トピックス

<新製品>	<経営施策>	2003	 <中国>	 <米国>
<ul style="list-style-type: none"> ・KES7000シリーズ(EMC) ・KFM2030(FC) ・PWRシリーズ(直流) ・PCR-Mシリーズ(交流) ・PATシリーズ(直流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発革新活動(DSUP) ・創立55周年記念行事 	2004	<ul style="list-style-type: none"> ・菊水電子(蘇州)設立(生産拠点) ・グローバル製品上市 	
<ul style="list-style-type: none"> ・KHA1000(EMC) ・PLZ6000R(回生負荷) ・TOS3200(漏洩電流試験器) ・PWR、PCR-Mラインアップ追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内営業所統廃合 	2005	<ul style="list-style-type: none"> ・TOS8XXXシリーズ ・大連化学物理研 	<ul style="list-style-type: none"> ・キクスイ・アメリカ設立(販売拠点)
<ul style="list-style-type: none"> ・PATスマートラック 		2006	<ul style="list-style-type: none"> ・DICP)技術提携 ・菊水貿易(上海) ・設立(販売拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル製品上市(PCR-Mシリーズ)
<ul style="list-style-type: none"> ・KHA3000(EMC) ・PFX2511(バッテリー充放電試験システム) 		2007		 <欧州>
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS5300シリーズ(耐電圧・絶縁抵抗試験器) ・Milla-E50(電気自動車(EV)急速充電器) 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立60周年記念行事 	2008		<ul style="list-style-type: none"> ・欧州代理店網再編... ・Electronica 2008出展
<ul style="list-style-type: none"> ・PCR-LEシリーズ(高性能交流電源) ・PWXシリーズ(薄型直流電源) 		2009	<ul style="list-style-type: none"> ・菊水貿易(上海)の分公司統廃合 ・生産拠点の合理化(菊水電子(蘇州)閉鎖) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・PCR-LE、PWXラインアップ追加 ・Milla-E20(電気自動車(EV)急速充電器) 		2010		<ul style="list-style-type: none"> ・Electronica 2010出展
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器) ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充 		2011		
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS7210S(PID絶縁試験器) ・TOS5200(耐電圧試験器) 		2012		<ul style="list-style-type: none"> ・Electronica 2012出展
<ul style="list-style-type: none"> ・PMX-Aシリーズ(小型直流電源) 		2013	<ul style="list-style-type: none"> ・深圳分公司設立 	
<ul style="list-style-type: none"> ・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷) 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設 	2014		<ul style="list-style-type: none"> ・Electronica 2014出展
<ul style="list-style-type: none"> ・PWR-01シリーズ(直流電源) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社移転 	2015		
		2016		<ul style="list-style-type: none"> ・Electronica 2016出展
		2017	<ul style="list-style-type: none"> ・ソリューションWEBサイト開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソリューションWEBサイト開設

会社紹介

● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)



グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、**自動車のノイズ耐性(EMC)**に関する試験、また**EV用バッテリーの絶縁性能試験**の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、**ハイブリッドカー・電気自動車の評価**に必須となる**電子負荷装置**(電力を消費する装置)、**パワーコンディショナー**などの**評価に必要な交流電源**の需要が高まっています。

直流電源



交流電源



電子負荷



KIKUSUI

KIKUSUI ELECTRONICS CORPORATION

決算説明資料 2018年 11月

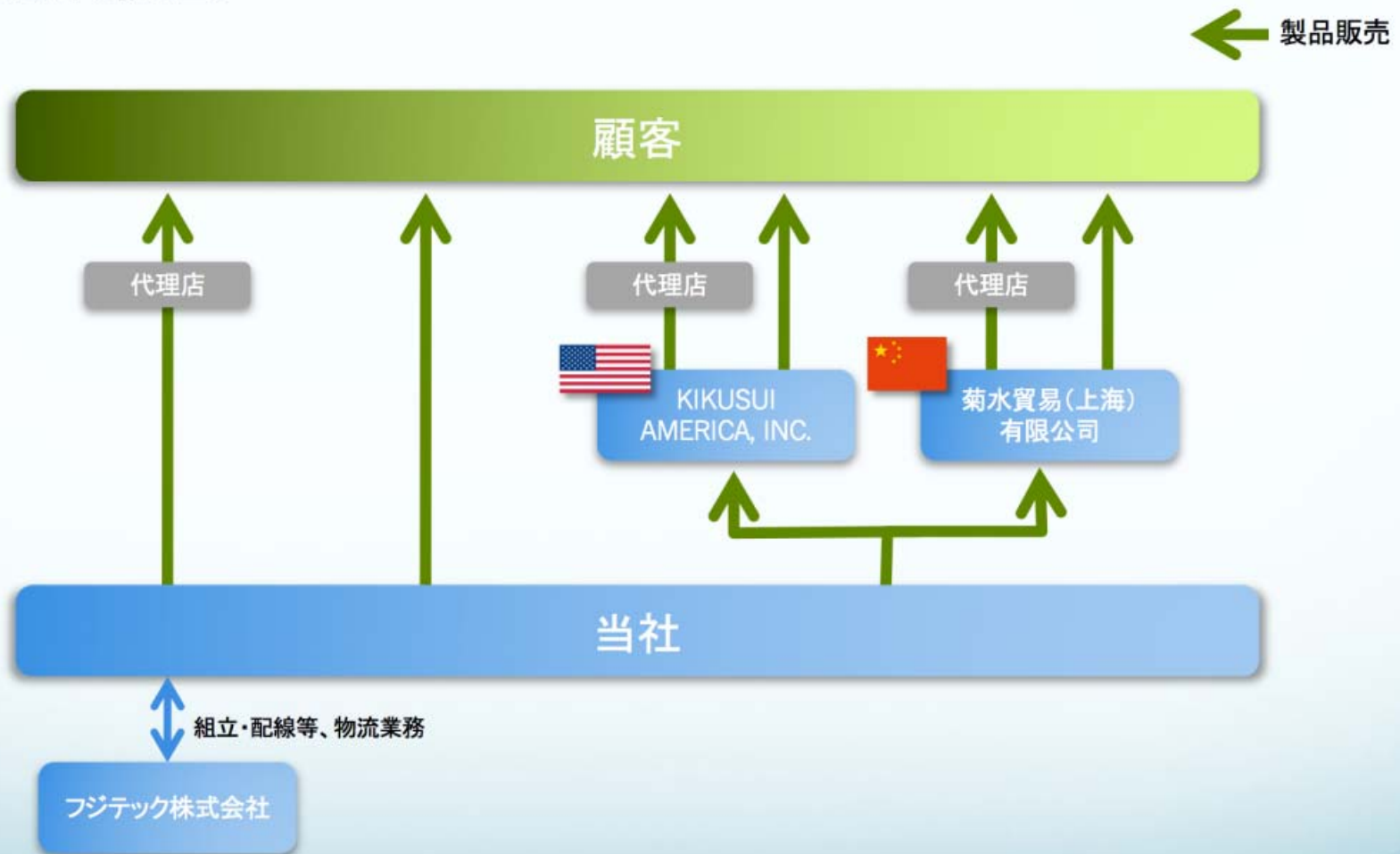
会社紹介

● 市場と製品



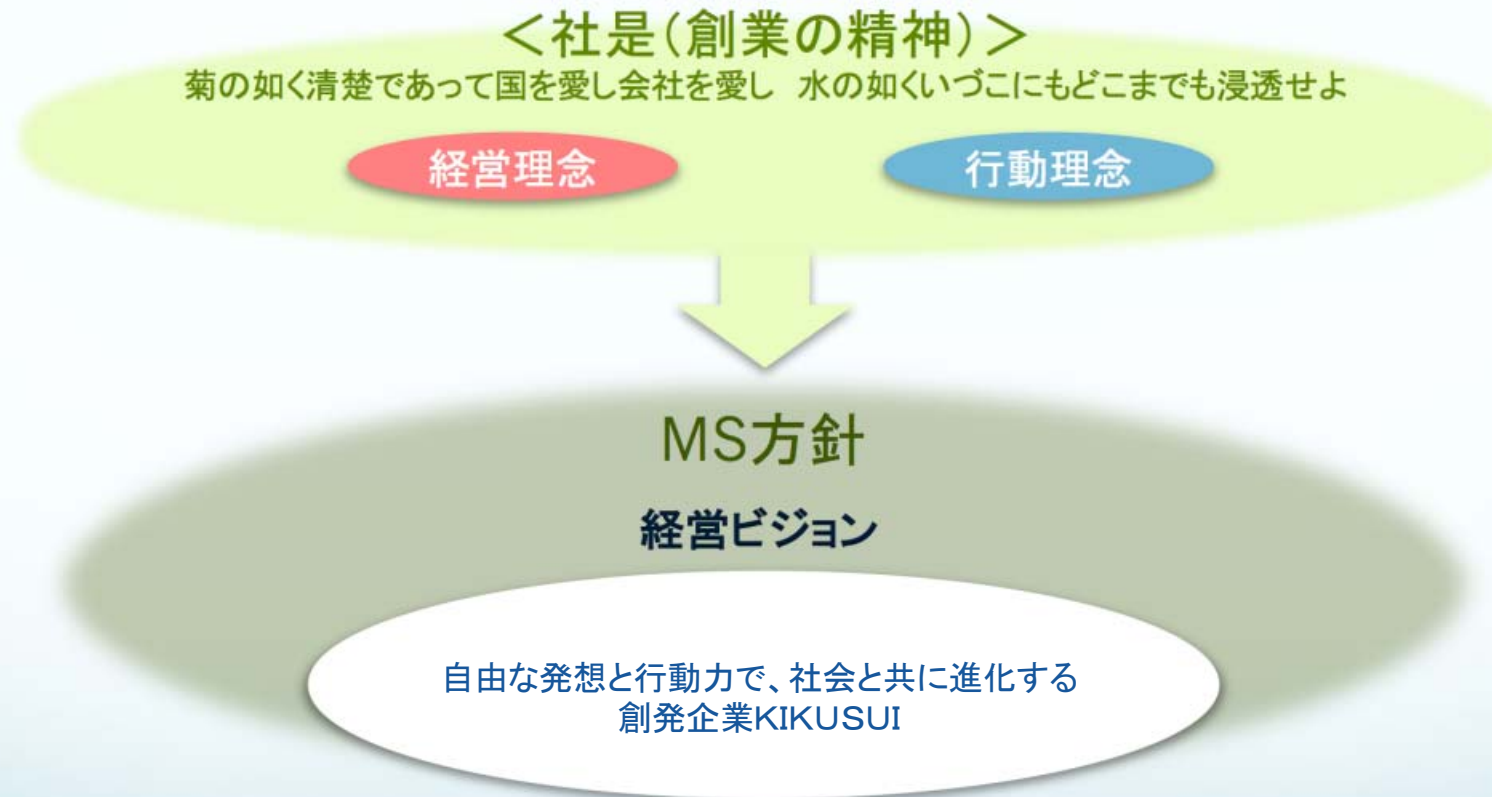
会社紹介

- 事業系統図



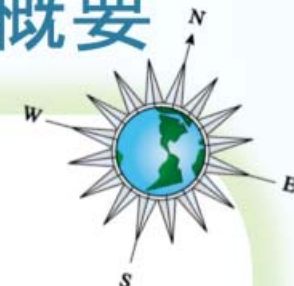
会社紹介

- コーポレートステートメント



2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、当社グループの重点市場である次世代自動車関連市場では、EV(電気自動車)や先進安全自動車及びこれらに関わる市場からの電気計測器の需要は増加傾向にありました。また、冷凍空調市場では、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したシステムの省力化・自動化等高付加価値化への取り組みに対する設備投資は堅調であり、製造業全般では、設備投資の動きは緩やかに回復しております。

このような状況の中、当社グループは次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、また、販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、新製品の投入等により39億3千万円(前年同期比11.7%増)となりました。

損益面におきましては、研究開発費、新製品の広告宣伝・販売促進費等の増加や技術開発拠点である菊水創発センターの改修工事等に伴う費用の計上などにより販売費及び一般管理費が増加しましたが、営業利益1億8千1百万円(前年同期比120.4%増)、経常利益1億8千7百万円(前年同期比120.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益9千8百万円(前年同期比32.8%増)となりました。

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益計算書

	18年/3月期(2Q累計)		19年/3月期(2Q累計)		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	3,517	100.0	3,930	100.0	412	11.7
売上原価	1,676	47.7	1,863	47.4	186	11.1
売上総利益	1,841	52.3	2,067	52.6	225	12.3
販売費及び一般管理費	1,758	50.0	1,885	48.0	126	7.2
営業利益	82	2.3	181	4.6	99	120.4
営業外収益	24	0.7	34	0.9	10	42.4
営業外費用	21	0.6	28	0.7	7	33.8
経常利益	85	2.4	187	4.8	102	120.0
特別利益	3	0.1	-	-	△3	-
特別損失	-	-	42	1.1	42	-
税金等調整前四半期純利益	88	2.5	144	3.7	55	62.9
法人税・住民税及び事業税 法人税調整額等	12	0.4	44	1.1	31	224.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	74	2.1	98	2.5	24	32.8
1株当たり四半期純利益	8.86円		11.82円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 3,930百万円
【前年同期 3,517百万円】 +11.7%
- 経常利益: 187百万円
【前年同期 85百万円】 +120.0%
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益: 98百万円
【前年同期 74百万円】 +32.8%

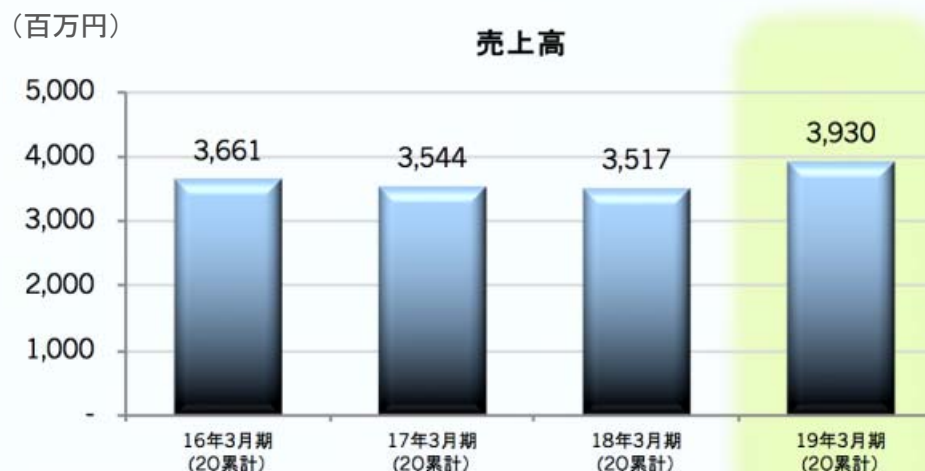
Point



次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、また、販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、新製品の投入等により39億3千万円(前年同期比11.7%増)となりました。

損益面におきましては、研究開発費、新製品の広告宣伝・販売促進費等の増加や技術開発拠点である菊水創発センターの改修工事等に伴う費用の計上などにより販売費及び一般管理費が増加しましたが、営業利益1億8千1百万円(前年同期比120.4%増)、経常利益1億8千7百万円(前年同期比120.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益9千8百万円(前年同期比32.8%増)となりました。



2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上高

- 電子計測器: 787百万円
【前年同期 773 百万円】 **+1.8%**
- 電源機器: 3,001百万円
【前年同期 2,602 百万円】 **+15.3%**
- その他: 140百万円
【前年同期 141百万円】 **△0.5%**

Point

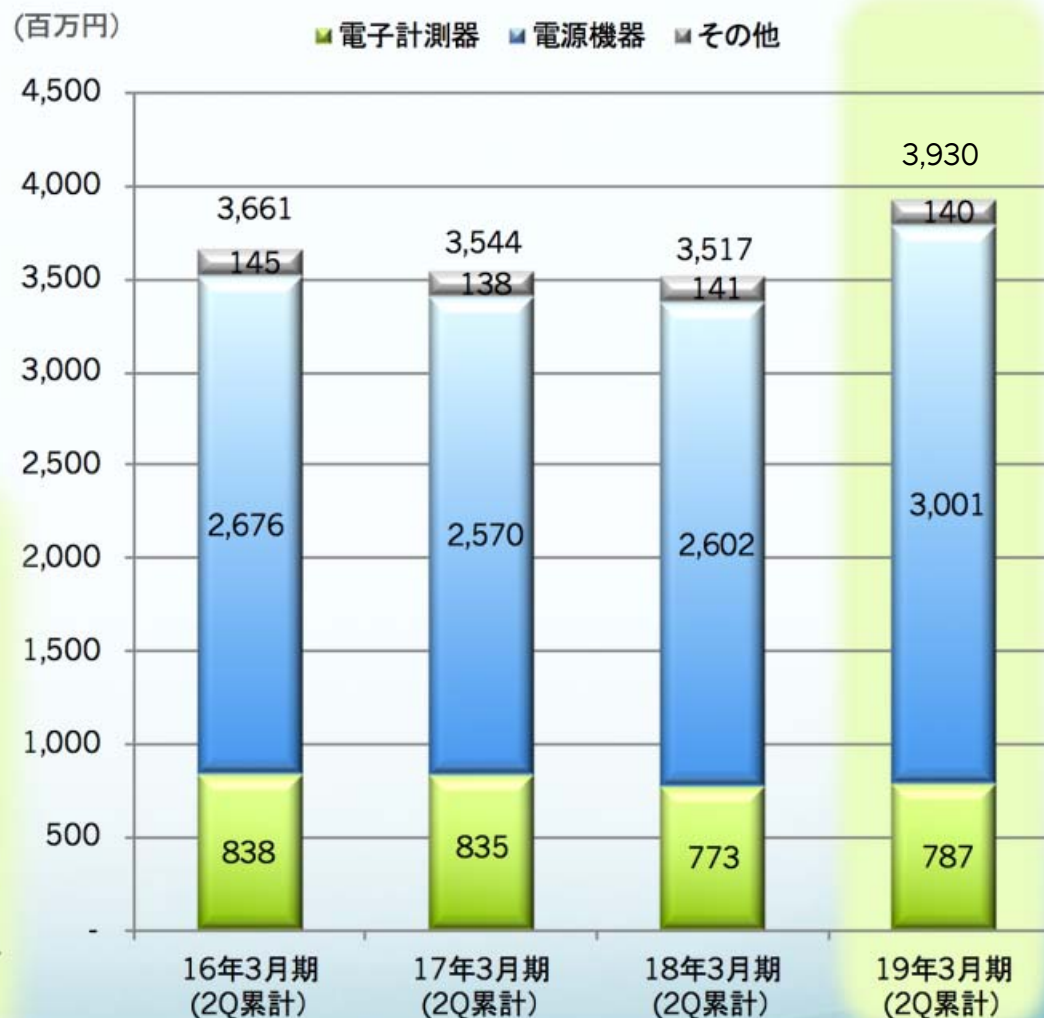


《電子計測器群》

航空機用電子機器の測定器は、受注状況は好調でありましたが、納期の谷間となり、大幅に売上を伸ばすことはできませんでした。安全関連試験機器は、耐電圧・絶縁抵抗試験用として車載関連市場においては好調に推移し、家電関連市場においても動きがありました。

《電源機器群》

直流電源は、次世代自動車関連市場への試験用供給電源として、また、半導体関連市場への装置駆動用電源として好調に推移いたしました。交流電源は、小型大容量の新製品販売効果もあり、車載関連市場や冷凍空調市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験用として小型大容量の新製品を中心に好調に推移いたしました。また、車載電池用充電システム等特注製品に動きがありました。



2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器: 20.0%
【前年同期 22.0%】 $\Delta 2.0\%$
- 電源機器: 76.4%
【前年同期 74.0%】 $+2.4\%$
- その他: 3.6%
【前年同期 4.0%】 $\Delta 0.4\%$

Point

電源機器の売上が増加し、電源機器の構成比率が増加しました。



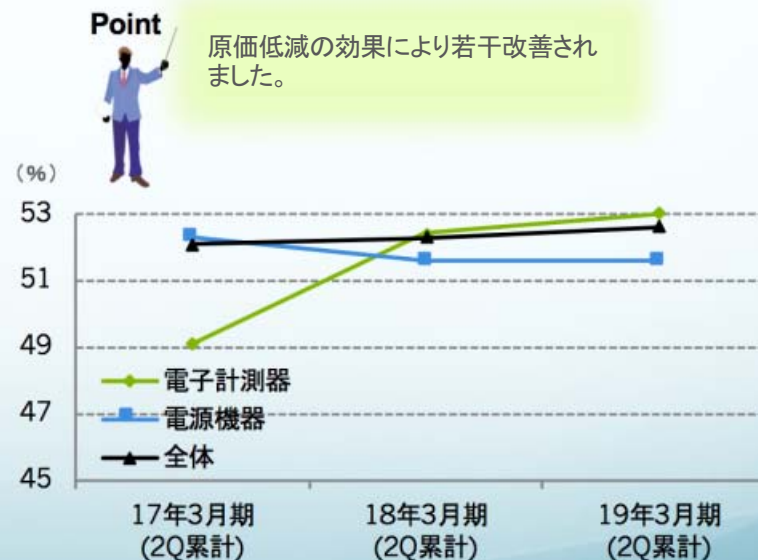
● 製品群別売上総利益率

- 電子計測器: 53.0%
【前年同期 52.4%】 $+0.6\%$
- 電源機器: 51.6%
【前年同期 51.6%】 $\pm 0.0\%$

売上総利益率: 52.6%
【前年同期 52.3%】 $+0.3\%$

Point

原価低減の効果により若干改善されました。

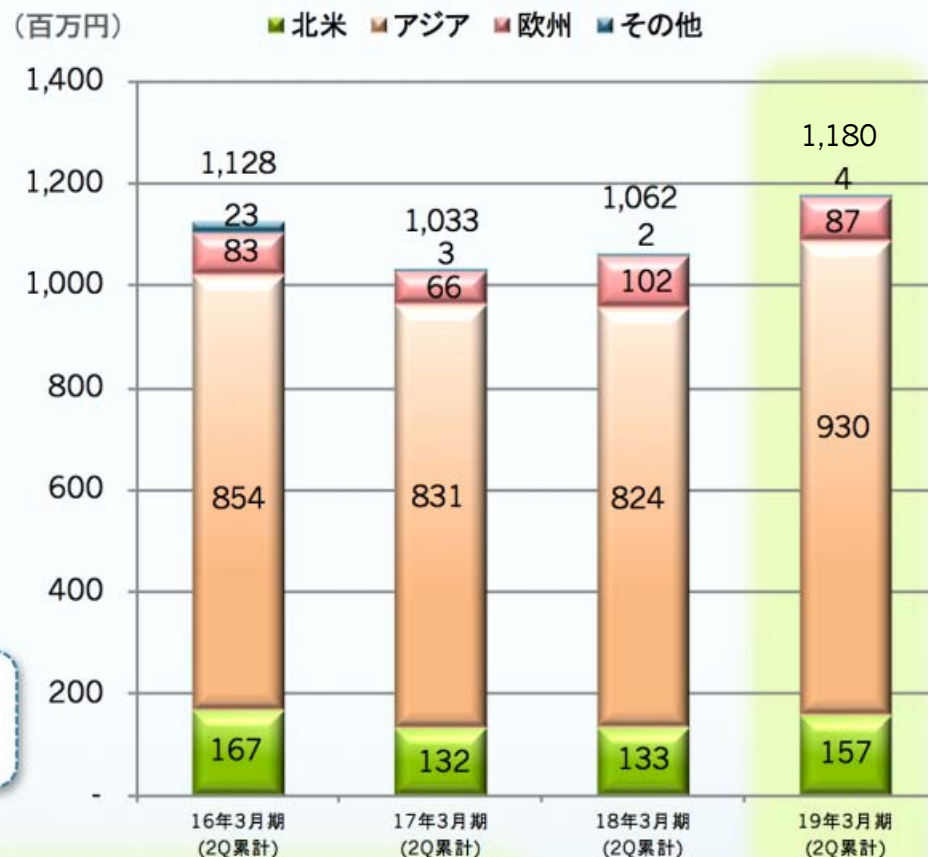


2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 海外売上高

- 北米:157百万円
【前年同期 133百万円】 **+17.9%**
- アジア:930百万円
【前年同期 824百万円】 **+12.9%**
- 欧州:87百万円
【前年同期 102百万円】 **△13.8%**
- その他の地域:4百万円
【前年同期 2百万円】 **+70.9%**

海外売上高合計:1,180百万円
【前年同期 1,062百万円】 **+11.1%**



Point



米国では、IT関連市場や宇宙産業市場への直流電源や電子部品市場への電子負荷装置が好調に推移いたしました。アジアにおいては、中国では、車載関連市場への安全関連試験機器や直流電源が好調に推移いたしました。韓国では車載関連市場への直流電源や電子負荷装置、また、東南アジアでは日系企業を中心に家電関連市場や電子部品関連市場への安全関連試験機器や直流電源にそれぞれ動きが見られました。欧州では、車載関連市場向けや電子部品市場への直流電源や電子負荷装置に動きが見られました。

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

- 研究開発投資 (対売上高比率)

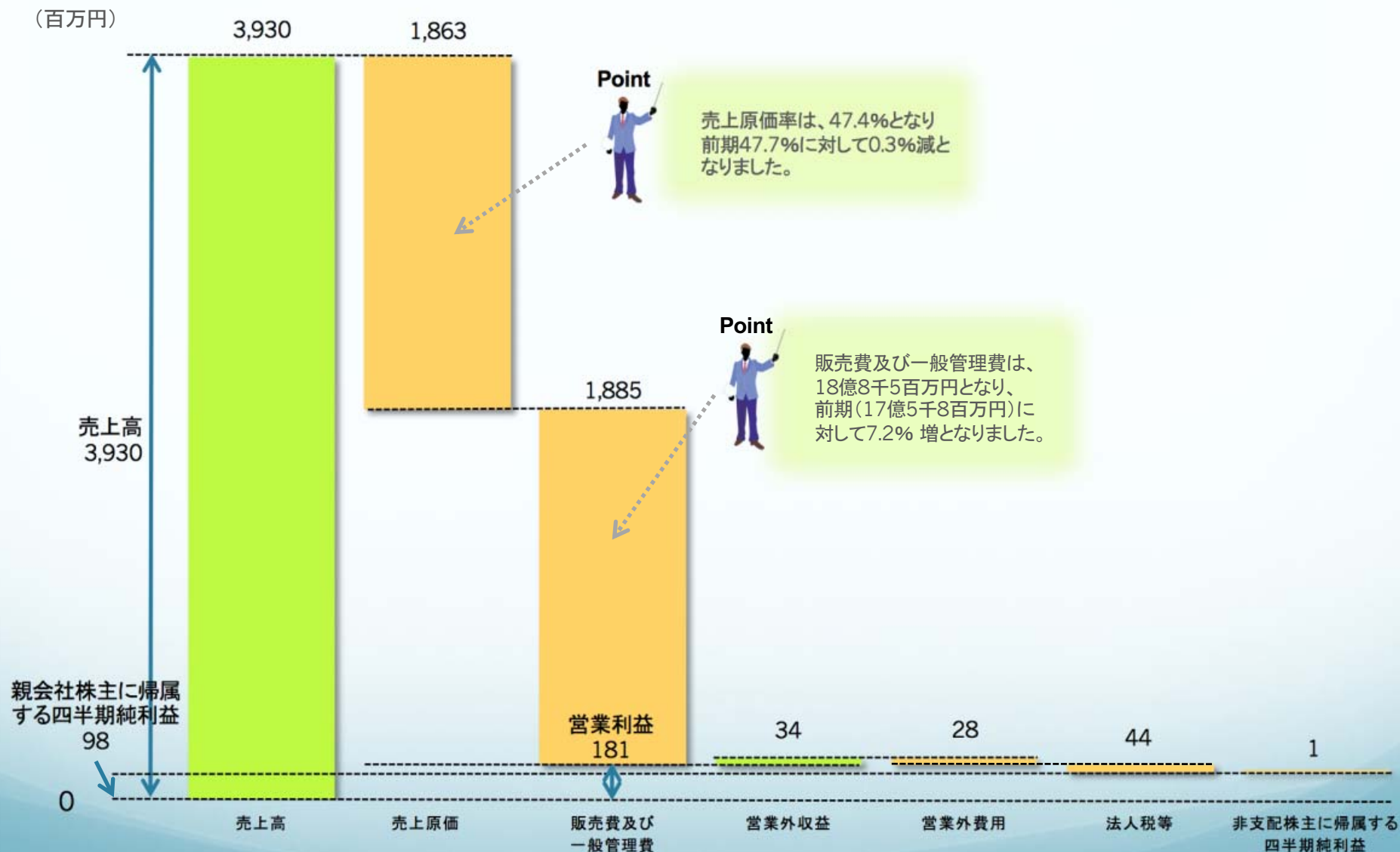
- 606百万円 (15.4%)
【前年同期 544百万円 (15.5%)】



2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益の概況

(百万円)



2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 貸借対照表

(百万円)

【資産の部】	18/3/31	18/9/30	増減
流動資産合計	6,819	6,330	△488
固定資産合計	4,786	4,977	190
資産合計	11,605	11,307	△297
【負債の部】	18/3/31	18/9/30	増減
流動負債合計	1,572	1,446	△126
固定負債合計	577	563	△13
負債合計	2,149	2,010	△139
【資本の部】	18/3/31	18/9/30	増減
資本金	2,201	2,201	-
資本・利益剰余金	7,245	7,160	△84
自己株式	△750	△781	△30
その他の包括利益累計額合計	720	676	△44
非支配株主持分	38	40	1
純資産合計	9,455	9,297	△157

2019年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円	16年/9月期	17年/9月期	18年/9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	179	135	228
投資活動によるキャッシュ・フロー	△90	△168	△353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△201	△192	△214
現金及び現金同等物の増減額	△131	△222	△340
現金及び現金同等物の期首残高	2,819	2,867	2,533
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,687	2,645	2,192

Point



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少等による資金の増加が、たな卸資産の増加等による資金の減少を上回り、2億2千8百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、△3億5千3百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得及び配当金の支払い等により、△2億1千4百万円となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、3億4千万円減少し、21億9千2百万円となりました。

(百万円)



2019年3月期 連結業績予想

2019年3月期 連結業績予想

	18年/3月期	19年/3月期		
	当期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	7,950	8,350	400	5.0
営業利益	481	590	109	22.5
経常利益	487	610	123	25.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	338	410	72	21.0
	18年/3月期	19年/3月期		
	当期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)	前期比増減率(%)
1株当たり 配当金	22.00	22.00	0	0.0

今後の事業戦略

今後の事業戦略

次世代自動車分野に注力



米国、アジア(中国, 韓国)を中心に海外市場拡販を強化！

本資料における注意事項

本資料は、2019年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2018年10月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL: 045(482)6912 E-mail: ir@kikusui.co.jp URL: <http://www.kikusui.co.jp/>